

博士前期課程カリキュラム・マップ



想定する
入学者

◎人文社会科学系の学部卒業生

◎外国語学部・国際系学部卒業生

◎理系学部・大学院卒業生

◎日本学やアジア研究に関心のある留学生

◎環海日本長崎学・アジア研究に関心のある社会人

◎高度実践力を伴う専門的職業人を目指す社会人

学問のエレメンツ
(6単位)
基盤必修科目群

学問のエレメンツ：多文化社会学(人文・社会)(2)
多文化社会学セミナーⅠ(2)
多文化社会学セミナーⅡ(2)

人文社会科学の概念や理論を学問の土台的基礎—存在論・認識論・方法論—to位置付け直し、各方法論の概念と理論の射程と限界を批判的に検討・再構築する。

〈身に付く力〉
人文社会系が本来有する批判力
(現状への批判的反省力)

学問のプラクティス(16単位)

グローバル・
スタディーズ科目群

＜目的＞
人文社会科学の見地から文化的他者への理解と共感に基づき、超域的に知と人を繋ぐことで、民族・宗教・文化・国家の摩擦や対立等における存在や意味の多様性に対する否定・反動に対して、専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
文化的他者への理解と共感に基づき、異質なものの総合からイノベーションを生み出す批判力・構想力・実践力

〔解決を目指す主問題〕
◎民族、宗教、文化、国家の摩擦や対立
◎存在や意味の多様性に対する否定・反動

文化表象論特講(2) / 特定演習(2)
現代思想特講(2) / 特定演習(2)
現代宗教論特講(2) / 特定演習(2)
ヨーロッパ社会史特講(2) / 特定演習(2)
アフリカ社会論特講(2) / 特定演習(2)
グローバル・ヒストリー特講(2) / 特定演習(2)
カルチュラルスタディーズ特講(2) / 特定演習(2)
East-West Studies 特講(2) / 特定演習(2)
東南アジア地域論特講(2) / 特定演習(2)

政策科学科目群

＜目的＞
既存の国際経済学(上からの視点)と地球上で生活する人々の視点(下からの視点)を調和した「世界政策論」を開拓し、政策・制度・規範と人間の安全保障に関わる問題等について専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
政策課題やその費用対効果、政策の適切な方法を学び、政策研究や政策分析を行う批判力・構想力・実践力

〔解決を目指す主問題〕
◎不均衡な資源分配に伴うリスク拡大
◎政策・制度・規範と人間の安全保障

国際人権・国際ジェンダー論特講(2) / 特定演習(2)
アジア・アフリカ法特講(2) / 特定演習(2)
経済開発論特講(2) / 特定演習(2)
国際秩序論特講(2) / 特定演習(2)
地域生態論特講(2) / 特定演習(2)
境界文化論特講(2) / 特定演習(2)
多文化家族研究特講(2) / 特定演習(2)

環海日本長崎学・
アジア研究科目群

＜目的＞
人文科学と社会科学の連携に基づく諸観点から、日本・アジアと世界の交叉・輻輳のなかで生じる歴史・文化・社会の問題について専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
ローカルな文脈に分け入りつつ、普遍的次元で展開可能な方法と理論を構築するための批判力・構想力・実践力

〔解決を目指す主問題〕
◎日本・アジアと世界の交叉・輻輳の中で生じる歴史・文化・社会の問題

日本近世史・日蘭交流史特講(2) / 特定演習(2)
文化遺産論特講(2) / 特定演習(2)
海域交流史特講(2) / 特定演習(2)
華僑・華人研究特講(2) / 特定演習(2)
現代日本政治外交論特講(2) / 特定演習(2)

言語多様性科目群

＜目的＞
言語学の多様性を文法的・音声的特性、文化社会的規則や談話レベルの特性等から捉えることで、コミュニケーションの発話行為を通じた意味創出等、言語が現実構成の基盤にあることへの理解の欠如に関わる問題についての専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
言語学の諸分野における知見をもとに、言語の普遍性と個別性に対する理解を深化させ、様々な言語使用場面、コミュニケーション場面やレジスターに対応した表現の精選と英語プログラムの立案、実施、及び英語教育者に指導助言できる実践力

〔解決を目指す主問題〕
◎コミュニケーションの発話行為を通じた意味創出やルール革新等、言語が現実構成の基盤にあることの理解の欠如に関わる問題

言語学基礎研究特講a(2)
言語学基礎研究特講b(2)
異文化語用論特講(2)
談話分析特講(2)
日英対照言語学特講(2)
方言学特講(2)
英語学特講(2)
言語アセスメント特講(2)
言語教育学特講(2)
応用言語学特定演習(2)
日中対照言語学特定演習(2)
生成統語論特定演習(2)
方言学特定演習(2)
言語学特定演習(2)
言語アセスメント特定演習(2)
言語教育学特定演習(2)

核軍縮・
不拡散科目群

＜目的＞
核軍縮・不拡散において人文社会科学系と自然科学系及び研究と実務の両側面を兼ね備える(文理融合)ことで、人道面・安全保障・経済等の問題について専門的解決を図る。

＜身に付く力＞
核軍縮・不拡散分野において人文社会系と理工系および研究と実務の両側面を兼ね備えた実践力

〔解決を目指す主問題〕
◎核軍縮・不拡散が未完のプロジェクトであることで生じる人道、安全保障、経済面等の問題

核軍縮と国際政治特講(2) / 特定演習(2)
原子力平和利用と核不拡散特講(2) / 特定演習(2)
核軍縮交渉の法と政治特講(2) / 特定演習(2)
核物質管理と核セキュリティ特講(2) / 特定演習(2)

文理融合
プログラム

【学際的総合教育科目】(1~2)

より学際的な視野を広げるための諸科目。開講科目数は20科目程度。

【選択科目】海外留学(短期)(2) 海外留学(中長期)(2) 海外フィールドワーク(2) 国際インターンシップ(2) 総合資料学(2) 統計分析基礎論(2)

研究指導(8単位)

研究指導(8) 主選択した科目群で研究指導を受ける

養成する人材像

21世紀社会の多文化社会的状況における諸問題に対して、文化的他者への理解や共感を第一義に据えて多様な文化や社会、理念や利害を洞察し、自らが有する確かな専門知とともに異なる専門知をも横断的に繋ぎつつ、「多文化社会学」の超域的かつ俯瞰的な見地から問題の発見・説明・予測・解決に取り組むことができる、「多文化社会学」を身につけた人材

授与する学位

修士(学術)(Master of Arts)

想定される就職先

商社・食品・製造等のグローバル企業、国際機関、シンクタンク、国際NGO、編集者、記者、アナリスト(国際社会問題等)、国家・地方公務員、教育者、通訳者、研究者

修了要件
30単位

()内の数字は単位数

03

04